

優れたアーティストをバックアップ

関西・大阪文化力会議—記念公演—

関西・大阪文化力会議2011では、開会前(プロローグ)と閉会前(エピローグ)に、平成22年度大阪文化祭奨励賞受賞者による記念公演が行われた。大阪文化祭賞の主催者に加わる大阪21世紀協会は、同賞受賞者にこうした発表の機会を設けることで、優れたアーティストの存在を広く知らせるとともに、その活動や大阪文化祭を広くアピールしている。今回は関西歌劇団によるオペラ「フィガロの結婚」の一部と、関西フィルハーモニー管弦楽団による演奏「モーツァルト:セレナード第13番・アイネクライネナハトムジーク」が披露され、400人の来場者が聴き入った。

フィガロの結婚

関西歌劇団

1949年指揮者 朝比奈 隆氏を中心に関西の声楽家たちにより発足。年1回グランドオペラ中心の定期公演をはじめ、数多くの公演を行っている。「お蝶夫人」や「夕鶴」、田辺聖子台本の「源氏物語」など邦人作品にも取り組み、日本のオペラ振興に力を入れている。2003年文化庁芸術祭優秀賞をはじめ受賞多数。



河邊敦子
(伯爵夫人役/ソプラノ)



高木ひとみ
(スザンナ役/ソプラノ)



富永奏司
(フィガロ役/バリトン)



佐藤明子(ピアノ伴奏)

アイネクライネ ナハトムジーク

関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年ヴァイエル室内合奏団として発足。2003年にNPO法人となり、井上礼之氏(ダイキン工業株式会社代表取締役会長兼CEO)を理事長として、関西を代表するオーケストラのひとつとして活動。2007年藤岡幸夫氏が首席指揮者、2011年世界的バイオリニストであるオーギュスタン・デュメイ氏が音楽監督に就任。



写真左より、友永健二(第1ヴァイオリン)、今川さゆり(第2ヴァイオリン)、飛田千寿子(ヴィオラ)、大町 剛(チェロ)